

技術情報

JA全農やまぐち

TAC・営農推進課(083-988-0681)

平成27年8月5日発行

第205号

I 平成27年度 第5回 水稻生育診断情報

山口県農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理速報(N05)を基に技術情報を作成しました。
水稻栽培の管理指導にご活用ください。

1 気象概況

- ・6月上旬は、まとまった降雨があり、降水量が多く、日照時間は平年並～少なく、気温は平年並みからやや低かった。
- ・6月中旬は、梅雨天候となったため、日照時間が少なくなり、最高気温は平年並～低く、最低気温は概ね平年並みであった。
- ・6月下旬から7月下旬にかけては、天気が周期的に変化し、まとまった降雨もあった。日照時間は平年並～少なく、気温は概ね平年並～低かった。
- ・梅雨明けは7月29日ごろで、平年よりも10日程度遅かった。

2 生育概況と今後の管理

(1) コシヒカリ(5月中旬植え)

①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・多くのほ場で既に出穂しており、全体的には平年並～3日遅い出穂期であるが、周防山間部の稲では出穂が平年よりも4～6日遅れているところもある。

【草丈】

- ・平年に比べてかなり短く推移している。下位節間の伸長は終了していることから、稈長も短くなる見込みである。

【茎数】

- ・穂数は平年並みに確保されると考えられることから、 m^2 当り籾数も平年並と予想される。

②今後の管理

- ・出穂後20日間は湛水管理を継続するが、用水の入れ替えにより根の健全化を図る。
- ・梅雨明け後、高温が続いていることから、可能な地域ではかけ流しを行って地温を下げる。
- ・葉いもちの発生が県内各地で確認されていることから、発生が多いほ場では、穂ぞろい期の防除を実施する。

(2) ひとめぼれ(5月中下旬植え)

①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・一部で出穂がやや遅れた稲もあるが、全体的には平年並の出穂となった。

【草丈】

- ・草丈は平年よりも短く、稈長も短くなる見込みである。

【茎数】

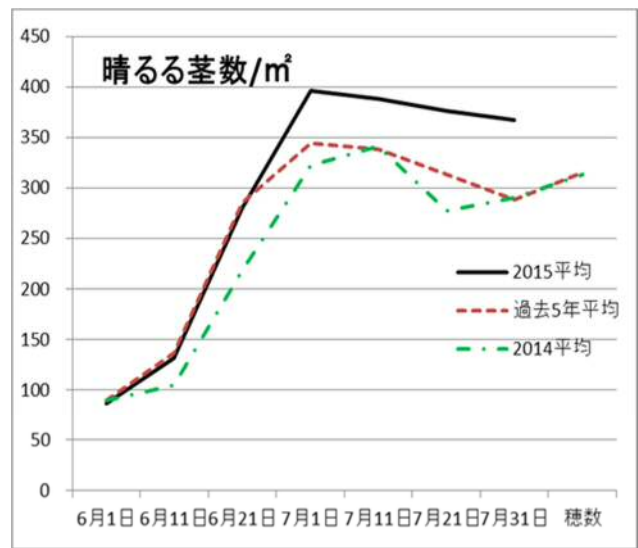
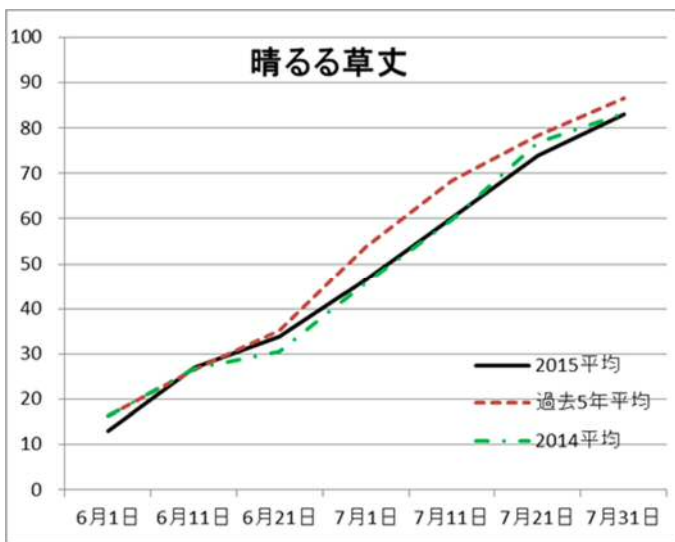
- ・茎数は概ね平年並みであることから、 m^2 当り籾数は概ね平年並と予想される。

【葉色】

- ・幼穂形成期後、緩やかに淡化していたが、出穂前からやや濃くなるほ場も認められる。

②今後の管理

- ・出穂後20日間は湛水管理を継続するが、用水の入れ替えにより根の健全化を図る。
- ・梅雨明け後、高温が続いていることから、可能な地域ではかけ流しを行って地温を下げる。
- ・葉いもちの発生が県内各地 (3) 晴るる(5月下旬植え)



①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・葉齢の進展は平年を0.5葉程度上回っており、主稈葉数が1枚増加している。現在は穂ばらみ期である。

【草丈】

- ・10日前と同様に、平年に比べて5cm程度短く推移している。

【茎数】

- ・ほ場によるバラつきがあるが、茎数は平年並～多くなっている。

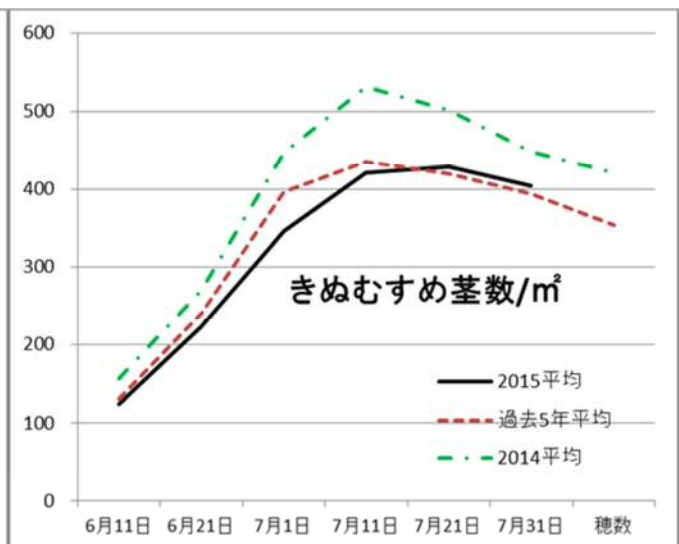
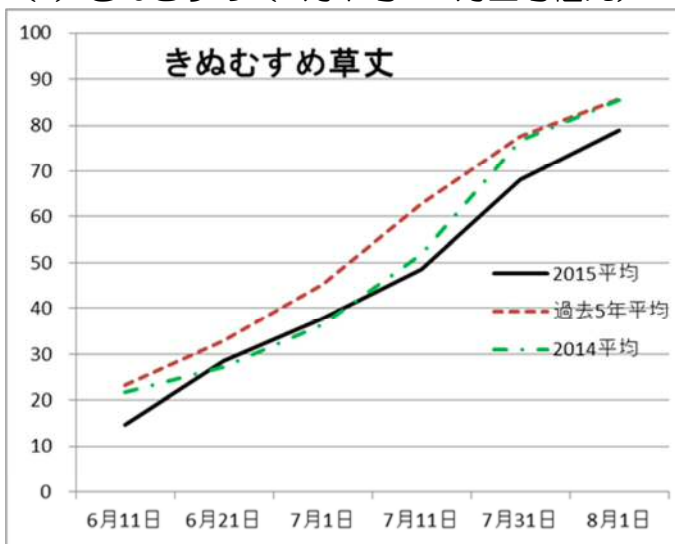
【葉色】

- ・幼穂形成期に入り葉色は急激に淡くなる傾向であるが、出穂前からやや濃くなるほ場も認められる。

②今後の管理

- ・主稈葉数が1枚増えたことから、出穂は平年並～やや遅れると考えられる。
- ・出穂後20日間は湛水管理を継続するが、用水の入れ替えにより根の健全化を図る。
- ・梅雨明け後、高温が続いていることから、可能な地域ではかけ流しを行って地温を下げる。
- ・葉いもちの発生が県内各地で確認されていることから、基幹防除を徹底する。

(4) きぬむすめ (5月下旬～6月上旬植え)



①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・葉齢の進展は平年よりも0.4程度遅れており、10日前から、平年との進展の差は縮まっていない。
- ・5月下旬植えの稲では、幼穂長が2cm程度に伸長している。で確認されていることから、発生が多いほ場では、穂ぞろい期の防除を実施する。

【草丈】

・低温の影響で3~9 cm以上短く推移しており、6月植えで特に短くなっている。

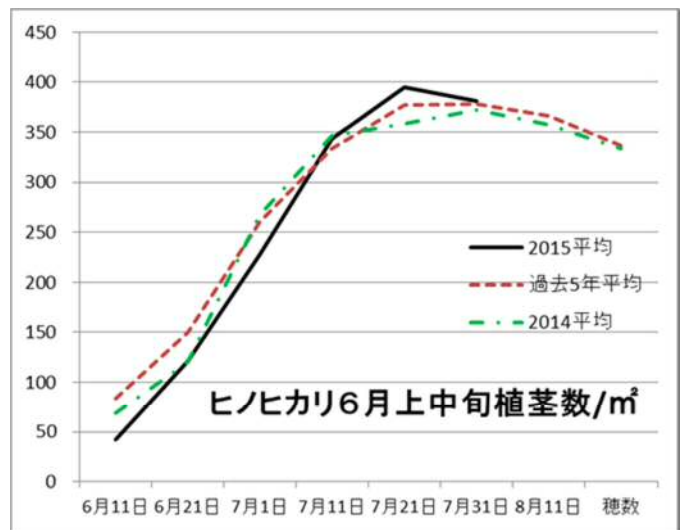
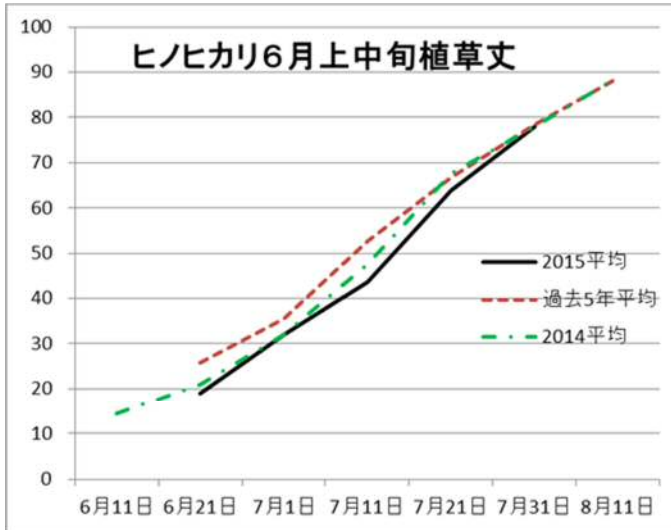
【茎数】

・低温の影響で生育が遅れていたことから、最高分げつ期が全体的には1週間程度遅れた。最高茎数には、ほ場間で茎数にバラつきがあり、平年よりm²当たり茎数が100本以上多いほ場や逆に少ないほ場があるが、全ほ場の平均値は、ほぼ平年並である。

【葉色】

・葉色は、最高分げつ期が遅れたことから、緩やかに淡化しており、出穂期までは急激な葉色の淡化はしないものと考えられる。

(5) ヒノヒカリ (6月上中旬植え)



①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

・7月1日以降の低温傾向の影響で生育の進みは葉齢の進展が遅れ始めた稲が多い。7月31日時点で、葉齢の進展は平年並~遅れている。多くのほ場で最高分げつ期を過ぎている。

【草丈】

・この20日間は、日照時間が少なく、夜温がやや高くなったため、葉身が伸びて草丈は平年に近づき、平年並となった。

【茎数】

・初期分げつの発生の良否でバラつきが見られる。最高分げつ期以降の茎数の減少が大きく、全体的には平年並となった。

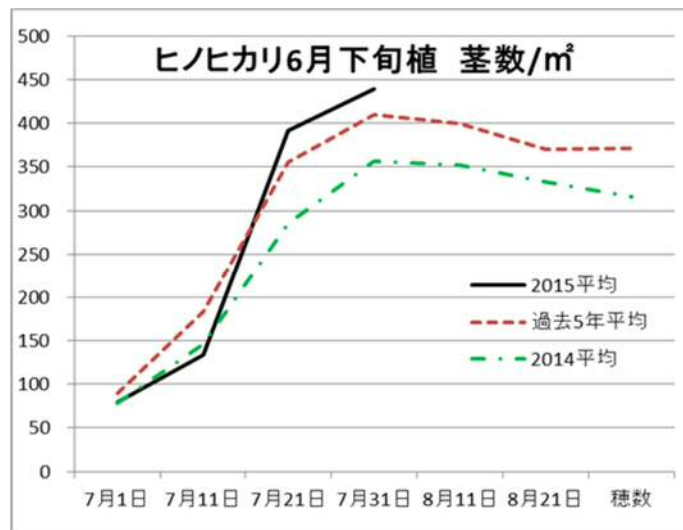
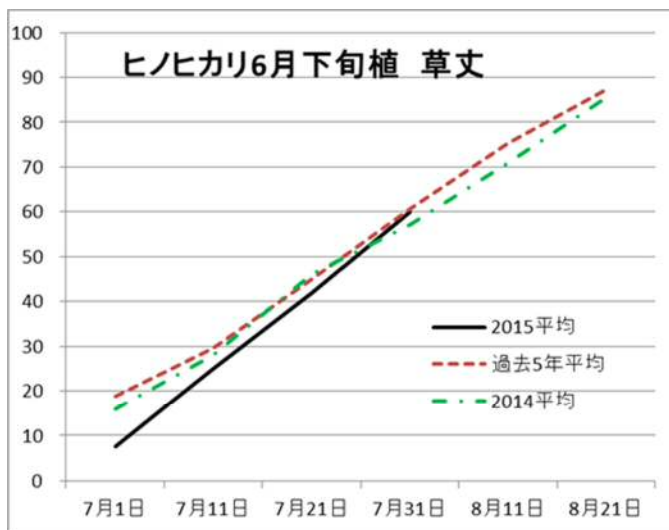
【葉色】

・葉色は10日前と同じか、濃くなるほ場が多い。

②今後の管理

- ・8月上旬から湛水管理に移行する。湛水管理時には、深水を維持するのではなく、用水の入れ替えや夜間のかけ流しを励行して、根の活力維持を図る。
- ・穂肥施用の場合は、必ず幼穂の状態を確認する。高温により葉色が淡化する場合には穂肥を増量する。逆に葉色の淡化が緩やかな場合には、葉色板で4.0を基準とし、これより濃い場合は施用量を減らすか省略する。特に、葉色が濃く茎数が多いと弱小分げつが有効化されるので、施用には注意する。2回目の穂肥は出穂10日前までに施用するが、葉色が濃い場合には減量するか省略する。
- ・平坦地のヒノヒカリでも葉いもちの発生が確認されており、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。
- ・斑点米カメムシ類の対策として、8月上旬には畔の草刈りを完了させる。

(6) ヒノヒカリ (6月下旬植え)



①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・葉齢の進展は平年より遅れていたが、この10日間で更に遅れ、平年に比べて2葉程度遅れている。ステージとしては、概ね最高分けつ期に達したところである。

【草丈】

- ・この20日間は、日照時間が少なく、夜温がやや高くなったため、葉身が伸びて草丈は平年に近づき、平年並となった。

【茎数】

- ・初期の分けつの確保が遅かったものの、茎数は、その後増加し、平年をやや上回っている。

【葉色】

- ・葉色は高めに維持されている。

②今後の管理

- ・中干し後は生育に応じた間断灌水を行い、8月5日頃から湛水管理に移行する。湛水管理時には、深水を維持するのではなく、用水の入れ替えや夜間のかけ流しを励行して、根の活力維持を図る。
- ・平坦地のヒノヒカリでも葉いもちの発生が確認されており、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。
- ・斑点米カメムシ類の対策として、8月上旬には畔の草刈りを完了させる。

3 病害虫の発生状況

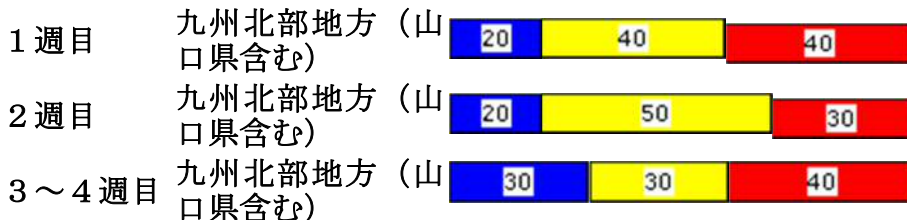
- ・イネいもち病の注意報が7月29日に発表された。
- ・7月22日～24日の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率24.4% (平年17.6%)、発病株率13.9% (平年5.5%)、発病度4.0 (平年1.4) で平年に比べ多かった。
- ・葉いもち発生予測モデル(BLASTAM)では、7月21日～23日にかけて県内全域で感染好適条件が出現しており(表)、今後も発病の進展や新たなほ場での発生が予想される。防除対策等については、「イネいもち病の発生と防除対策(注意報第2号)」を参照のこと。
- ・ヒメトビウンカとセジロウンカの発生量は「やや少」で、今後の発生は「やや少」の予想である。
- ・トビイロウンカとコブノメイガの今後の予想は、「平年並」であるが、今後の病害虫防除所の最新情報を確認する。
- ・斑点米カメムシ類の発生量は「平年並」で、今後の予想も「平年並」の見込みである。出穂2週間前までに草刈りを実施し、それ以後はイネ科雑草の穂が出ないように管理するとより効果的である。極早生水稲や雑草地周辺では、カメムシ類が集まりやすいので、従来の穂揃期の防除に加えて、穂揃期7日後にも防除する。

4 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



凡例： 低い (少ない) 平年並 高い (多い)

< 気温経過の各階級の確率 (%) >

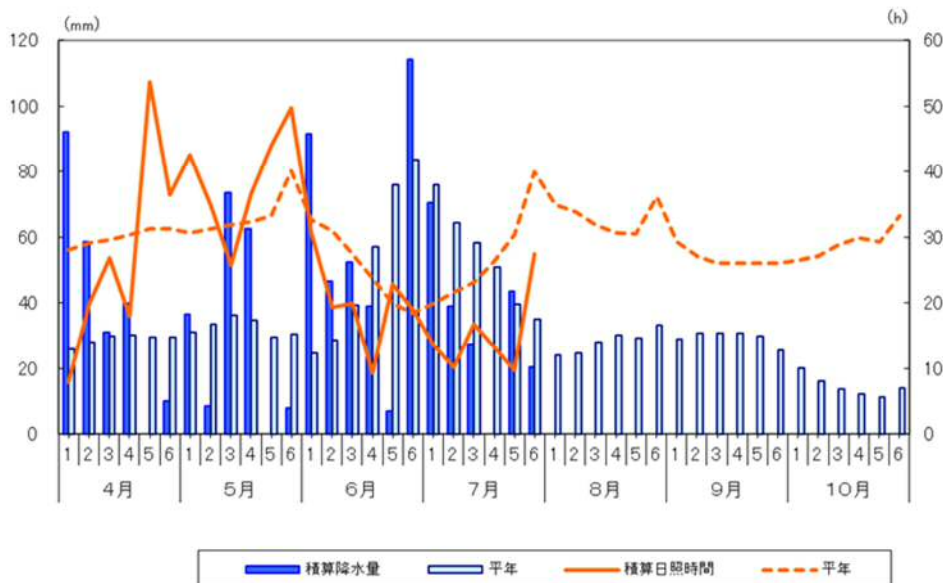
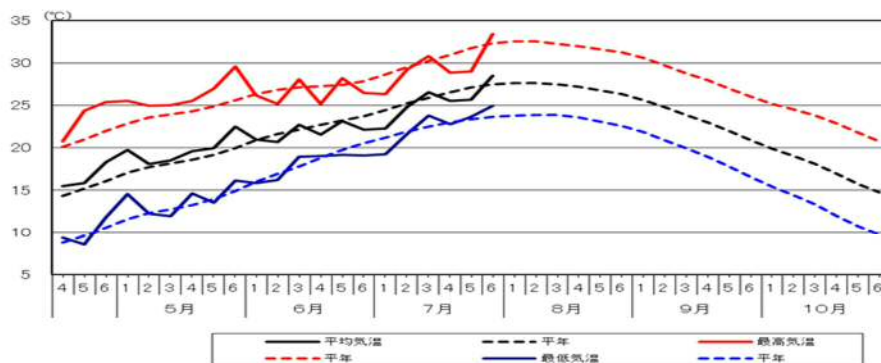


凡例： 低い 平年並 高い

5 2015年度稲作期間の気象

1 気象概況

気温 (アメダス山口)



降水量・日照時間 (アメダス山口)

5 定点調査の生育状況

水稻定点調査 7月31日時点の生育状況

品種	地帯	草丈cm		茎数/m ²		葉齢		葉色	
			格差		格差		格差		格差
コシヒカリ	農試定点	93	▲ 10	446	20	12.8	0.3	4.8	0.5
ひとめぼれ	北浦	-	-	-	-	12.8	▲ 0.2	4.1	▲ 0.2
	瀬戸内西部	86	▲ 12	403	26	12.1	▲ 1.1	4.4	0.1
	農試定点	82	▲ 9	462	43	12.7	▲ 0.6	4.5	▲ 0.3
晴るる	長門中間	83	▲ 4	368	80	13.5	0.5	4.5	0.6
きぬむすめ	周防山間	75	▲ 9	438	5	13.1	▲ 0.3	4.3	0.3
	長門中間	82	▲ 4	380	▲ 12	13.1	0.1	4.2	0.2
	北浦	79	▲ 4	427	14	12.4	▲ 1.7	4.1	▲ 0.1
	平均	79	▲ 6	0	0	12.9	▲ 0.4	4.2	0.2
	農試定点	86	▲ 3	452	37	12.5	▲ 0.7	4.3	1.0
ヒノヒカリ 6月上中旬植	北浦	79	79	427	14	12.4	▲ 1.7	4.1	▲ 0.1
	瀬戸内東部	77	▲ 0	395	7	12.2	▲ 0.5	4.3	0.2
	瀬戸内西部	79	▲ 0	377	11	12.2	▲ 1.0	4.5	0.3
	平均	78	▲ 0	381	2	12.4	▲ 0.6	4.4	0.2
	農試奨決	77	▲ 2	390	▲ 87	11.8	▲ 0.3	4.6	0.2
ヒノヒカリ 6月下旬植	瀬戸内西部	60	▲ 1	439	29	10.0	▲ 1.7	4.5	0.3
	農試定点	70	4	466	▲ 66	11.5	▲ 0.3	4.3	0.3
山田錦	長門山間	76	-	365	-	12.4	-	4.2	-
	北浦	75	▲ 6	381	▲ 23	12.6	▲ 0.4	4.1	0.4
	瀬戸内東部	75	-	320	-	11.9	-	4.2	-
	平均	76	-	366	-	12.3	-	4.1	-